

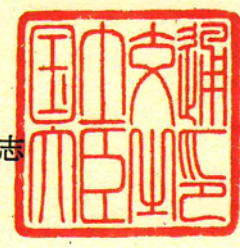


# 認定書

国住指第 4209 号  
平成 24 年 4 月 25 日

因幡電機産業株式会社  
代表取締役社長 守谷 承弘 様

国土交通大臣 前田 武志



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 5 第 1 項第七号ハ（防火区画貫通部 1 時間遮炎性能）の規定に適合するものであることを認める。

## 記

1. 認定番号  
PS060WL-0602
2. 認定をした構造方法等の名称  
被覆材付硬質ポリ塩化ビニル管／膨張黒鉛混入ポリオレフィン系樹脂・炭酸カルシウム系シール材充てん／壁準耐火構造／貫通部分
3. 認定をした構造方法等の内容  
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名：

被覆材付硬質ポリ塩化ビニル管／膨張黒鉛混入ポリオレフィン系樹脂・炭酸カルシウム系シール材充てん／壁準耐火構造／貫通部分

2. 申請仕様の寸法等：

申請仕様の寸法等を表1に示す。

表1 申請仕様の寸法等

項目		申請仕様
開口部	形状	円形(φ110mm以下)
	面積	0.0095m <sup>2</sup> 以下
占積率 (開口面積に対する被覆材付配管の断面積の総合計の割合)		54.3%以下
貫通する壁の構造等		建築基準法施行令第115条の2の2第1項第一号の規定に基づく準耐火構造(60分) (ただし両面強化せっこうボードに限る) 又は建築基準法第2条第七号の規定に基づく耐火構造(60分) (ALCパネル及び鉄筋コンクリート造を含む) 厚さ 95mm以上

3. 申請仕様の主構成材料：

申請仕様の主構成材料を表2に、配管の構成材料を表3に示す。

表2 申請仕様の主構成材料

項目		申請仕様	
充てん材	①	材料	膨張黒鉛混入ポリオレフィン系樹脂・炭酸カルシウム系シール材
		形状	パテ状
		密度	
		組成 (質量%)	
		使用箇所 (使用量)	蓋金具内部に密に充てん (壁面から高さ40mm以上)
	②	材料	膨張黒鉛混入ポリオレフィン系樹脂・炭酸カルシウム系シール材
		形状	パテ状
		密度	
		組成 (質量%)	
		使用箇所 (使用量)	開口部内部に密に充てん (蓋金具側の開口部内に壁厚方向30mm以上)

表3 申請仕様の配管の構成材料

項目	申請仕様			
給水管 ・ 排水管 (以下、配管という)	硬質ポリ塩化ビニル管 (JIS K 6741、VP管・HIVP管)	φ60.0mm以下	厚さ	4.5mm以下
	水道用硬質ポリ塩化ビニル管 (JIS K 6742、VP管・HIVP管)			
	耐熱性硬質ポリ塩化ビニル管 (JIS K 6776、HT管)			
被覆材 (後付タイプ) あり又はなし	ポリエチレンフォーム (JIS A 9511)	外径	厚さ	81mm以下
	ポリプロピレンフォーム			
	難燃ポリオレフィンフォーム (酸素指数：21以上)			
	ポリスチレンフォーム (JIS A 9511)			
	硬質ウレタンフォーム (JIS A 9511)			
	フェノールフォーム (JIS A 9511)			
	合成ゴム系フォーム (ニトリルゴム、スチレングム、クロロプレンゴム、エチレンプロピレングム)			
	グラスウール (JIS A 9504)			
	ロックウール (JIS A 9504)			

4. 申請仕様の副構成材料：

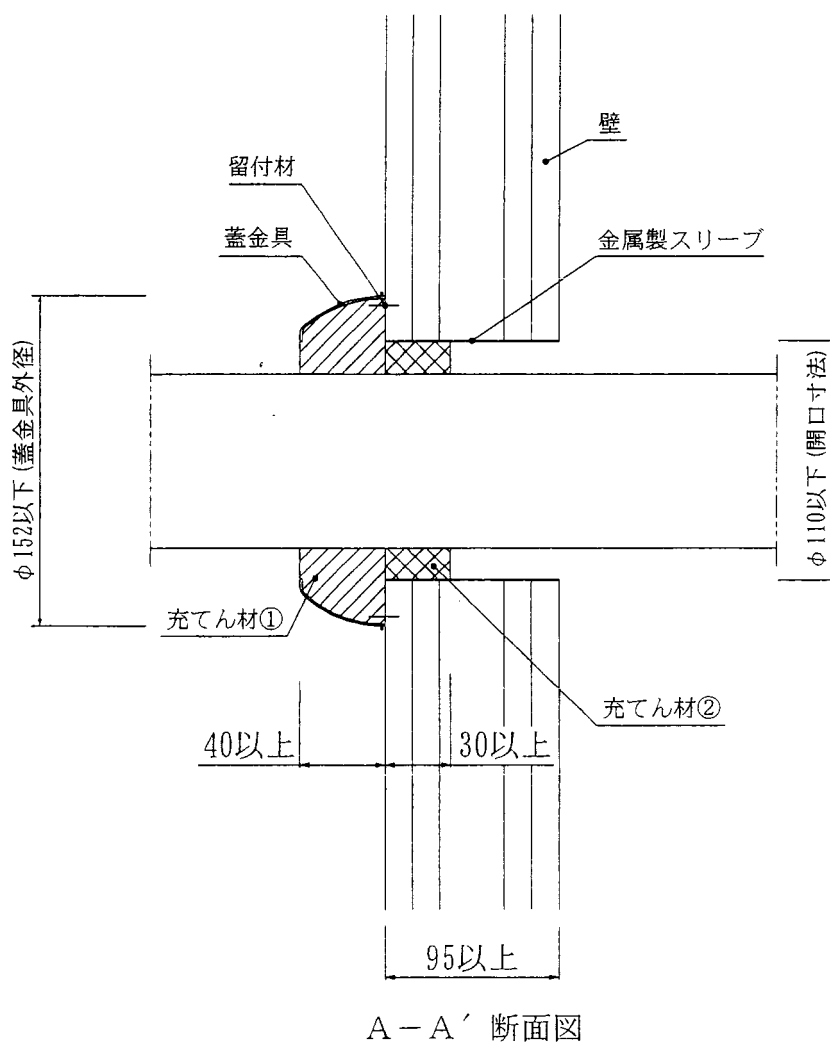
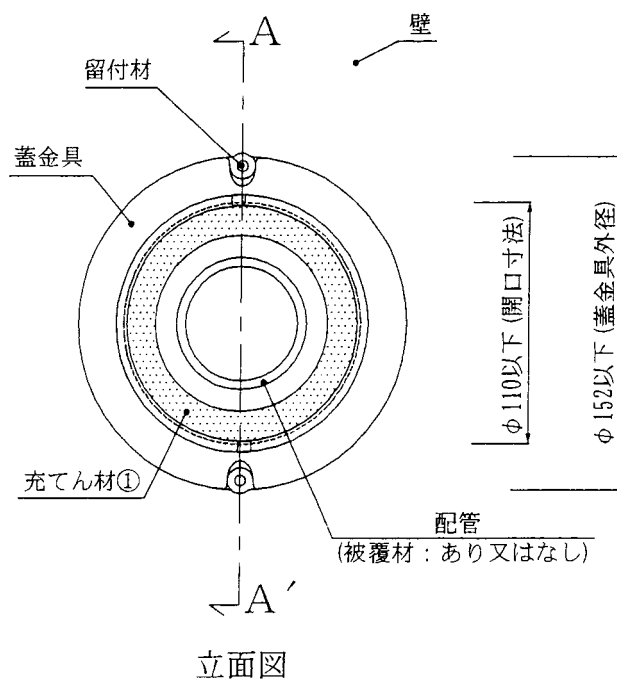
申請仕様の副構成材料を表4に示す。

表4 申請仕様の副構成材料

項目	申請仕様	
蓋金具	材料	①～⑤の一 ①溶融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3302) ②溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 (JIS G 3317) ③クロムめっき鋼板 (JIS G 7122) ④熱間圧延軟鋼板 (JIS G 3131) ⑤冷間圧延鋼板 (JIS G 3141)
	寸法	厚さ 1.0mm以上 高さ 40mm以上 (開口寸法による、図3参照)
金属製スリーブ	材料	①～⑥の一、又はなし (中空壁の場合、①～⑥の一) ①溶融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3302) ②溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 (JIS G 3317) ③クロムめっき鋼板 (JIS G 7122) ④熱間圧延軟鋼板 (JIS G 3131) ⑤冷間圧延鋼板 (JIS G 3141) ⑥ブリキ (JIS G 3303)
	寸法	厚さ 0.25mm以上、長さ 95mm以上、外径 開口径による
	使用箇所	中空壁の場合、貫通部に設置
留付材	材料	タッピンねじ 材質：鋼製又はステンレス鋼製
	寸法	M4×25mm以上
	使用箇所	蓋金具と壁面との留付用 (2箇所)

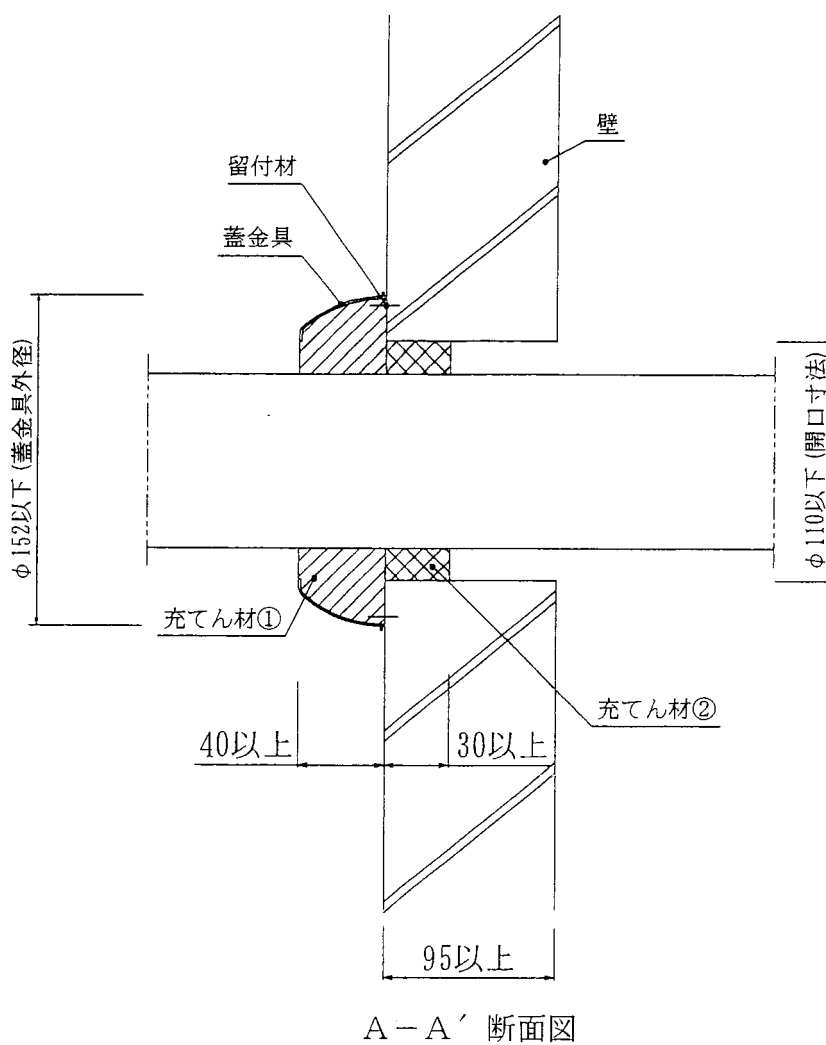
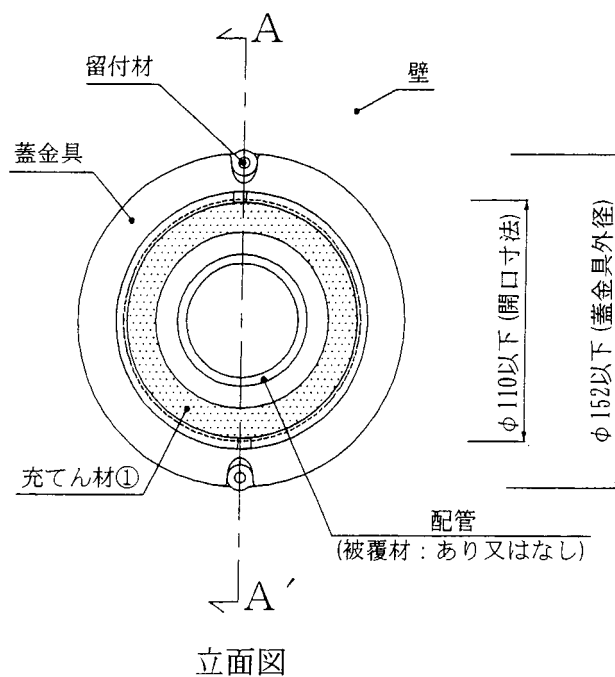
5. 申請仕様の構造説明図：

申請仕様の構造説明図を図1～図3に示す。



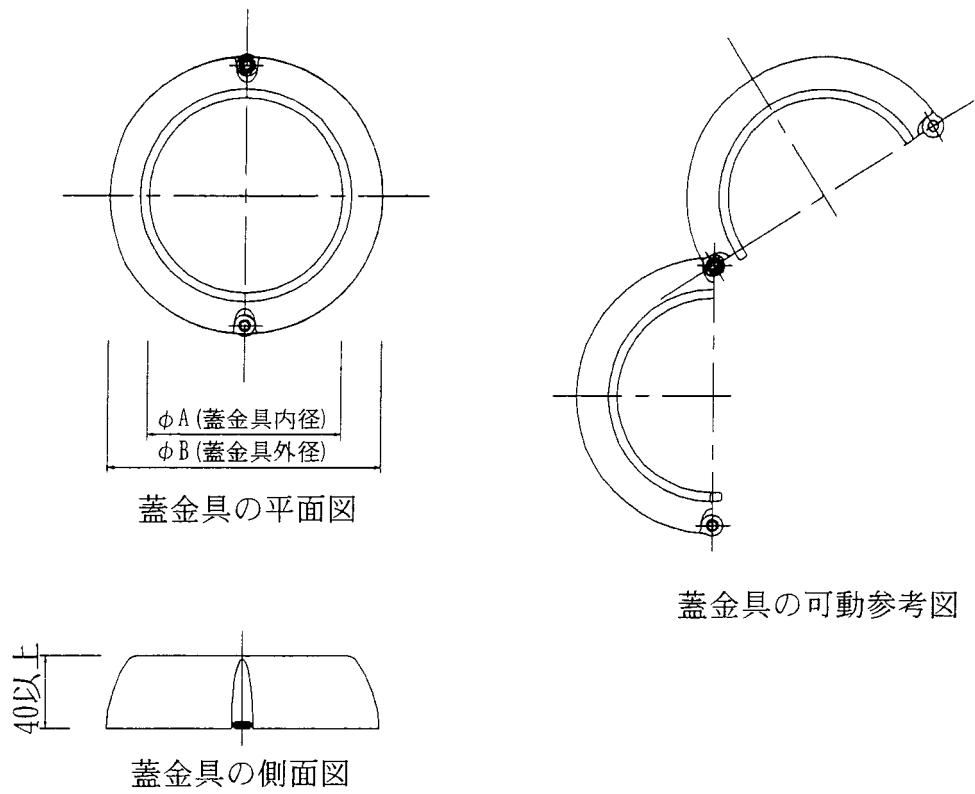
※中空壁等の場合

図1 構造説明図



※中空壁以外の場合

図2 構造説明図



蓋金具の標準寸法例

開口寸法	呼び	$\phi A$	$\phi B$
$\phi 55\text{mm}$	50	52mm	98.5mm
$\phi 85\text{mm}$	75	82mm	127mm
$\phi 110\text{mm}$	100	107mm	152mm

図3 構造説明図

6. 施工方法：

施工図を図4及び図5に示す。

施工は以下の手順で行う。

(1) 貫通穴の設定

コアドリル等を用いてφ110mm以下の貫通穴を設ける。

(2) スリーブの挿入(中空壁構造の場合)

区画貫通孔に金属製スリーブを挿入する。(金属製スリーブの長さは壁厚と同じ。)

(3) 配管の設置

配管を設置して支持・固定する。

(4) 充てん材②の充てん

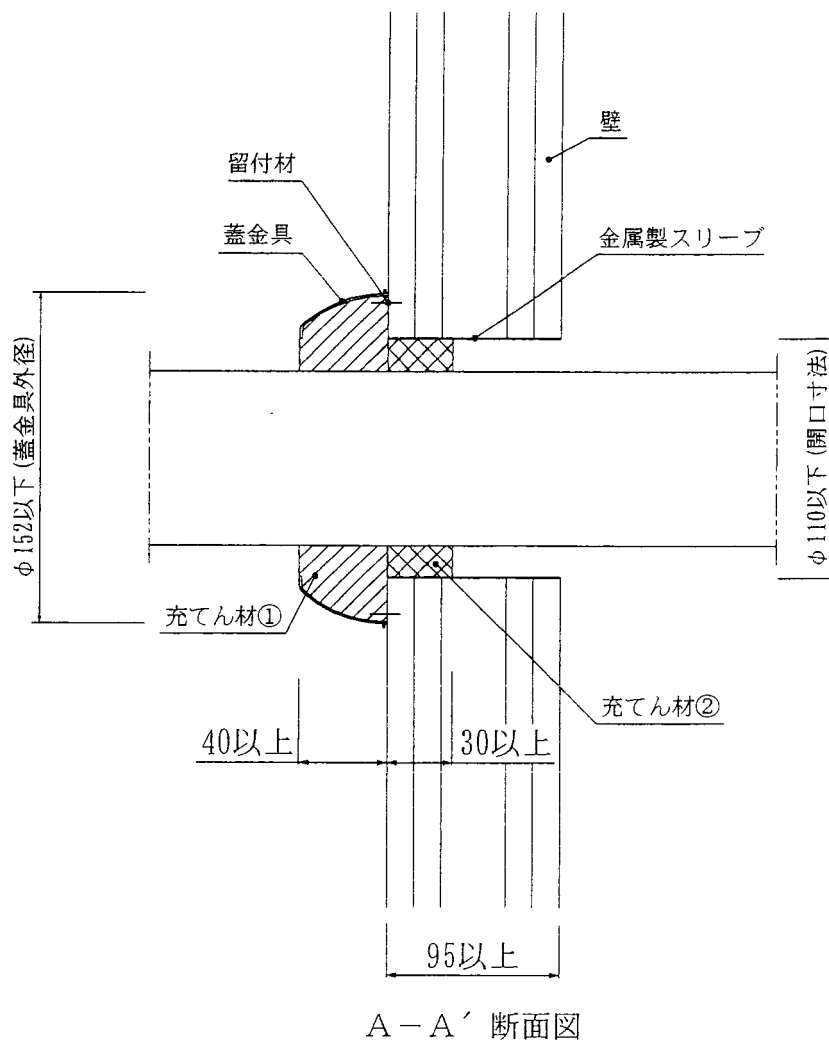
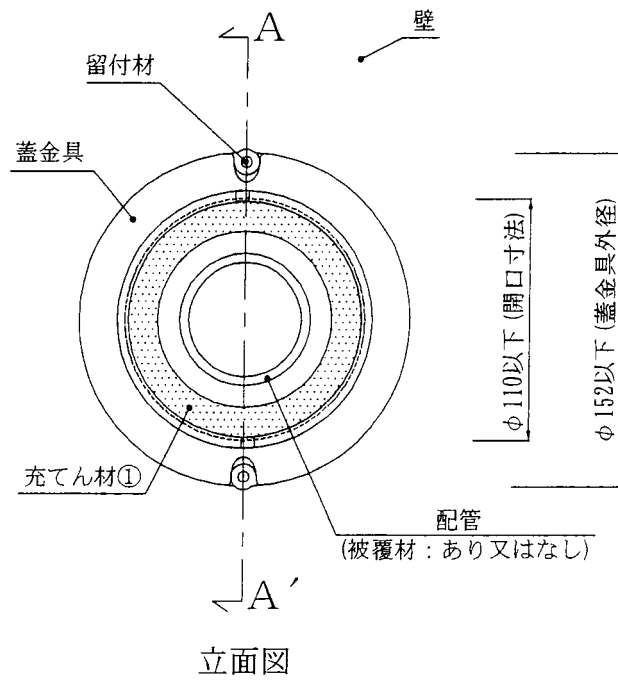
壁の片側に充てん材②を厚さ30mm以上密に充てんし、隙間が無く面一であることを確認する。

(5) 蓋金具の取付け

充てん材②の充てんされた壁側に、蓋金具を開き、配管を金具の中に入れ込んで留付材を用いて固定する。(壁の片面に処置を行う)

(6) 充てん材①の充てん・仕上げ

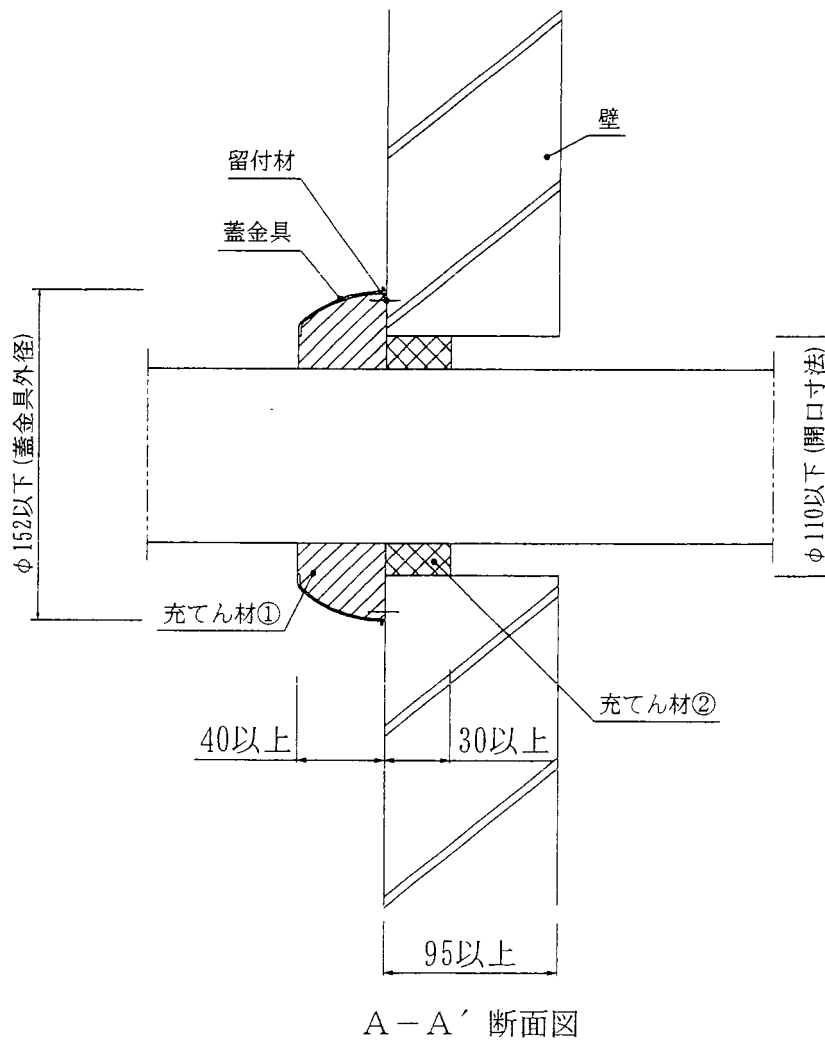
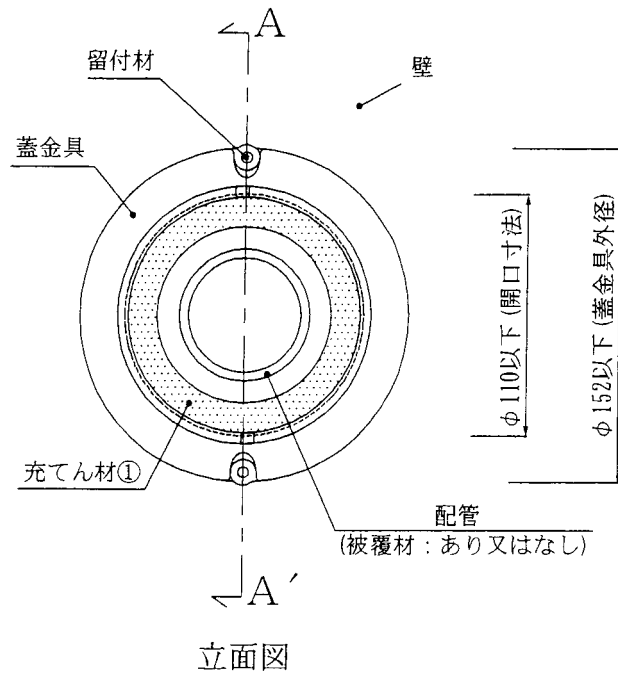
充てん材①を蓋金具の内部に密に充てんし、隙間が無く面一であることを確認し、脱落しないように仕上げる。(壁の片面に処置を行う)



※中空壁等の場合

図4 施工図





※中空壁以外の場合

図5 施工図